

評価項目 1 教育理念・教育目的・人材育成目標・学校運営

1977年、大学受験の私塾として久留米の地で創業し50周年の節目を迎えた久留米ゼミナールはチャレンジ・オン（挑戦し続けるという意）という同校の教育の原点に回帰し、次の10年を見据えた人材教育を具体化するため各学科・コースの目標を設定した。

評価項目	教育理念・教育目的・人材育成目標	学校運営
大学受験科	知識一辺倒の従来の教育から脱却し、生徒が主体的に取り組む、思考力・判断力・表現力を育成できる学習環境を目指した。目標とする大学の合格のみならず、その先のキャリアパス、多様化する社会を見据えた教育、未来の課題に対応できる柔軟性を兼ね揃えた総合力を見につけた人材育成をめざした。	対話重視、双方向型授業、少人数授業、学力レベル別授業を展開し、自らの学力に応じて学ぶ力の深化をめざした。さらに志望校の合格のみならず、大学進学後あるいは大学卒業後のキャリア形成、また、集団で協力・協議することで、主体性を最大限引き出せる指導を行っていった。
日本語学科	めまぐるしく変化する世界情勢、また外国人材の受入れ及び多文化共生が進められる日本において、時代の要請に応えられる人材の育成を社会的使命とし、自分の未来を切り拓くことを目指す学生たちの自己実現のための教育・生活支援に、教務・学務・募集担当が連携し、取り組むことができている。	日本の法令及び法務省が定める日本語教育機関の告示基準に基づき、学則、教育課程、学生数、校長・教員資格を順守し、学生募集、在籍管理、福岡出入国在留管理局への報告を適切に行っている。その結果、福岡出入国在籍管理局より在籍管理適正校(クラスⅠ)として選定された。
国際教養科	次代の有為な人材として、基本的生活習慣、基礎学力そして品格ある日本人としての道徳性を身に付けることにより、社会を生き抜く力を培う。	全日型通信制の特長を活かして、日常の授業や学校行事、生徒会活動などの教育活動全般をととして、自己の将来の目標を模索する環境を整える。また、「生きる力」を培うために、ソーシャルスキルトレーニング関連の授業や相談事業の充実を図り生徒への支援体制を整える。
5段階評価	4.0	4.0

評価項目 2 教育活動

評価項目	教育活動
大学受験科	刻々と変化する教育環境、教育制度に合わせ、部署単位で議論、研究し続け、生徒密着型教育の本質を探し求めた。また、部署横断的な新しい取り組みや、外部との連携による企画も始まり、多角的な教育活動も始めた。今後のさらなる総合的、重層的な教育サービスの提供に向けた大きな一歩となった。
日本語学科	学生たちが目標とする進路に必要な日本語力と進路選択に役立つキャリア教育の2本立てでカリキュラムを編成し、実践している。また、日本社会に適応し、将来、活躍できる人材育成のために、日々の学校生活の中でも日本の文化や習慣を教えるようにしている。教員向けに「登録日本語教員」や「認定日本語教育機関」への制度の勉強会などもおこない、教員の資格取得のフォローもおこなった。
国際教養科	校外での特別活動と教育課程に沿った正課の授業の充実に加えて、生徒会活動の活発化、各種資格取得を希望する生徒数の増加など主体性・積極性の向上が見られた。
5段階評価	4.5

評価項目 3 生徒指導

評価項目	生徒指導
大学受験科	勉強においても就業においても、規則正しい生活習慣を身につけていることが目標達成の第一歩と考え、各担任の受持ち生徒数を少数にし、密接な生徒指導ができる体制づくりを行った。また、始業前の生徒・学生への連絡等を密にするだけでなく、保護者への「学校内の見える化」を図り、生徒・保護者・教師の連携も充実させた。学生寮においては定期的に訪問を行うことで、生徒・学生の生活実態を把握し、常に生徒・学生の変化に気づく体制を整えた。
日本語学科	日頃から学生とのコミュニケーションを密に取り、出席及び生活状況を常に把握し、安全で有意義な留学生活を送れるようなサポート体制を整えている。進学先の入試の開始時期が早まっているのに対応し、キャリア教育、進路指導を例年より前倒してカリキュラムに入れ込み、希望の学校に入学させることができた。 また、進路が多様化する中、就職を希望する学生もあり、教員もこの知識、経験を深め、希望する学生たちはすべて技術・人文知識・国際業務、特定技能の就労ビザへ在留資格変更し、就職することができた。
国際教養科	社会人として備えるべき立ち居振る舞いを目標に、制服の着こなし方、挨拶・礼儀、時間励行など基本的な生活習慣を身につけることを念頭に日常的な指導を継続することができた。
5段階評価	4.0

評価項目 4 特別活動

評価項目	特別活動
大学受験科	年2回の三者面談では、受験校選定だけでなく今後の将来に向けた具体的な方向性の確認を行い、三者が納得できる面談ができた。また、共通テスト直前の出陣式では、気持ちを奮い立たせ、各人の目標に向けた後押しができた。
日本語学科	積極的に学外活動を授業内に入れ込み、活動前の導入、活動後の振り返りを行い、意義のある学外活動を行うことができた。日本人高校生との交流も3年目となり、2024年度は高校生が企画したイベントに留学生が参加するという新しいスタイルの交流も実施することができ、双方にとって、学びのある活動となった。
国際教養科	社会活動もコロナ以前に戻り、校外活動やボランティア活動への参加が再開される中で、学校周辺の美化活動や校内の特別活動なども含め、生徒の自主的な活動もより盛んになった。
5段階評価	4.0

評価項目 5 学修成果

評価項目	学修成果
大学受験科	国公立大学の平均合格率85%超を維持。私立大学においても難関上位大学をはじめ、多くの合格を出すことができた。最難関である医学部や歯学部薬学部においても目標を達成し、学生、保護者が満足できる結果を出すことができた。
日本語学科	法務省告示基準の1つである「課程修了者の日本語取得状況等」の報告では基準該当者割合は100%であった。就職希望者8名(卒業生の1割)が就職することができた。
国際教養科	卒業生21名の内、進学(大学および専門学校)は7名で進学率は33%。就職は4名である。就労支援等の福祉サポート2名、進路未決定の者が8名という結果になった。
5段階評価	4.0

評価項目 6 生徒・学生支援

評価項目	生徒・学生支援
大学受験科	経済支援の一環として奨学生試験を実施し、経済状態による学習不安を解消できた。また、生徒の精神的不安解消のため、保護者との連携を密にし、学校と家庭の両面からフォローできる体制にもさらなる強化ができた。登校・退校時はオンライン出席管理システムを導入し、保護者が常に生徒の出席状況、学習状況を把握できるようにしている。
日本語学科	【奨学金】 日本政府などの奨学金のほか、本校独自に日本語能力試験N1、N2合格者奨励制度もあり、多くの学生のモチベーションや励みとなっている。 【住環境】 全ての新生が入居できる学校所有の寮を完備し、専従の職員が生活全般から健康管理まで24時間対応している。また民間アパートへの居住を希望する学生には不動産会社の情報を提供するなどしてサポートしている。 【入国時】 来日時の空港出迎え、市役所での住民登録、国民健康保険加入、銀行での口座開設手続き同行、携帯電話購入案内など、初めての留学生生活を安心して過ごせるための手厚い支援ができています。 【オリエンテーション】 入学時に、事故や災害、健康に関するオリエンテーションを実施し、消防防災センターにて防火・防災体験に参加するなど安全な留学生活を送れるよう備えている。 【健康管理】 年に一度、医療機関で健康診断を実施。また、月に一回、保健所の指導により、各クラス担任による健康チェックを行っている。万が一、病気や怪我になった場合は職員が医療機関に同行するなど、健康に留学生活がおくるための支援体制ができています。 【傷害保険】 万が一の事故や怪我に備え、全学生は傷害保険に加入している。
国際教養科	特別な支援や配慮を必要としたり、学習、対人関係に悩む生徒に対して、校内のSSTの取組によって手厚い支援・助言をする機会を設定することができた。家庭や医療機関・外部の支援団体と連携して個々の生徒の育成にあたった。
総合評価	単なる学習指導ではなく、将来の目標に向けたステップアップのため、経済面や精神面といった多角的な支援体制を整えている。
5段階評価	4.0

評価項目 7 教育環境

評価項目	教育環境
大学受験科	生徒の学習意欲に常時対応できるように職員室をオープンにし、開館中はいつでも質問指導ができる環境を維持した。自習室は年間で364日解放し、特に平日の夕方以降の自習室には監督を配置。静粛な環境での自習室利用を提供した。
日本語学科	外国人留学生専用の校舎にて日本語および日本文化を習得し、生活、進路相談を受ける環境が整っている。全教室への加湿機能付き空気清浄機を設置し、授業終了後には机・椅子の消毒を行い感染対策に努めた。また全館にWi-Fiを導入し、インターネットやデジタル教材を活用し教育の充実を図ることができた。
国際教養科	施設・設備については、教室の換気やエアコンの適切な温度設定などに細心の注意を払い、生徒が学びやすい学習環境の整備に努めた。
総合評価	新型コロナウイルス禍に学習環境およびネット環境の整備は概ね改善されたが、アフターコロナにおいてオンライン授業と直接対面授業の融合に課題があるように見受けられる。
5段階評価	4.0

評価項目 8 学生募集

評価項目	学修成果
大学受験科	新課程入試に対応した学習環境が提供できるよう、ハード面での設備導入、ソフト面でのカリキュラムの改定など様々な準備をしてきた。これらにより、新課程導入であっても安心して受験できる学習環境をアピールしてきた。
日本語学科	4か国語によるホームページ・パンフレット・募集要項、youtube、Facebook、Instagram等、SNSを活用し、学園理念・教育目標・カリキュラム・授業料・学校生活等の情報提供を行っている。学生募集は、海外の日本語学校や日本語学校を併設した留学センター等と提携し、その在学・受講生から入学者を選抜している。現地での筆記試験または日本語試験合格証・面接(オンライン含む)および書類選考で、留学の目的、日本への適応力、留学経費支弁能力を総合的に判断し可否を決定しているが、昨年度からは学校説明会や面接はオンラインで行った。提携先からの報告も評価、可否判断材料の一つとしている。
国際教養科	少子高齢化で学生募集が厳しい中、中学校や関係機関と情報共有を行いながら例年と比べ出張説明会・講習会・ガイダンスの依頼が増え学生募集に直結し、募集目標近くまで達成することができた。
5段階評価	3.5

評価項目 9 法令等の順守

評価項目	法令等の順守
	学校運営に必要な変更が生じた場合には遅滞なく監督官庁への届け出、報告を行うよう引き続き努力していく。SNSをはじめとするネット上での交流やPRの機会が増える世時に、個人情報の取り扱いがますます重要となっているため、就業規則に個人情報取扱規程および特定個人情報取扱規程を迫則して教職員に周知努力をしている。
5段階評価	4.0

評価項目 10 社会貢献

評価項目	社会貢献
	・専修学校久留米ゼミナールでは社会人・学生向けの資格取得の会場として他団体に校舎を貸している。 ・久留米市外国人の日本語教室 野中町教室、北野町教室(令和6年5月～令和7年3月)受託 ・文化庁 日本語教師養成・研修促進拠点整備事業「日本語教師養成コンソーシアム九州・沖縄」(拠点校:公立大学法人福岡女子大学) 日本語教師育成のための研修部会 委員 ・文科省 専修学校の国際化推進事業 委員 ・久留米工業大学 地域課題解決実践 多文化共生プロジェクト 外部講師 ・大学日本語教員養成課程専攻大学生 教育実習生受け入れ ・久留米市役所職員対象「第4回やさしい日本語研修」講師 ・久留米市観光コンベンション 多文化共生セミナー「やさしい日本語講座」講師 ・国際教養科の生徒が職員引率の下、地域の行事や催物にボランティア活動で参加して地域貢献している。
5段階評価	4.0

評価項目 11 国際交流

評価項目	国際交流
	学校内の「日本語学科」の留学生と「国際教養科」の高校生との間で交流会を3回実施することができた。留学生にとっては日頃学んでいる日本語を実際に使う場として、また、若い世代の日本人と接し異文化交流を通して親睦を深めた。ウォーキングイベント久留米つつじマーチ、国際交流イベント・くるめこくさいD AY、西国分校区福ふくまつりに参加し、市民との交流や異文化理解など地域の国際化に取り組めた。
5段階評価	4.0

評価項目 12 財務

貸借対照表 2025年3月31日現在 単位:円

資産の部	
科 目	本年度末
固定資産	2,679,326,031
流動資産	421,006,508
資産の部 合計	3,100,332,539
負債の部	
科 目	本年度末
固定負債	471,522,635
流動負債	533,579,267
負債の部 合計	1,005,101,902
純資産の部	
科 目	本年度末
第1号基本金	2,569,515,513
翌年度繰越収支差額	△ 474,284,876
純資産の部 合計	2,095,230,637
負債及び純資産の部 合計	3,100,332,539

総 括

2022年(令和4年)には、創業55周年という大きな節目を迎え、これまでの歩みを振り返るとともに、今後のさらなる発展に向けた新たな一歩を踏み出しました。

当法人では、大学受験予備校(久留米校・佐賀校・医学部進学コース)、日本語学科、単位制・通信制高校部門など、多様な教育事業を展開しており、地域に根ざした総合的な学びの場の提供に力を注いでいます。また、高齢者介護施設「つつじ苑」の運営にも取り組み、人生のさまざまなステージに寄り添う支援体制を整えています。

これらの事業を通じて、法人グループ全体としての収益基盤の強化を図るとともに、教育と福祉の両面から地域社会への貢献を目指しています。